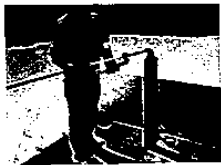


全日本トラック協会(星野良三会長)は22日、京王プラザホテルで全国物流青年経営者中央研修会を開催し、丸吉運輸機工(北海道)、サンコー(栃木)、彦新運輸(東京)、川崎陸送(東京)、新居建設運輸(徳島)の5社に、「青年経営者等による先進的な事業取組に対する顕彰」で表彰を行った。

全ト協には元々、かつて会長代行をつとめた鈴木元徳氏が私財を投じて造成した基金による「鈴木賞」が設けられている。これは一般会員を対象に「運輸事業のさらなる高度化・効率化を図るため、トラック輸送において優れた業績を挙げた個人又は団体の顕彰を行うもの」とさ

簡易的な転落防止ベルト完成



○ウイング車・平ボディ車の荷台作業中による地面への落下を防止する特製のベルトを開発し、弊社では「セーフティ・ロープ」(命綱)と名付けました。

れているが、今年度から、青年経営者を対象にした顕彰制度も加えることにしたもの。収益性向上、安全対策、環境対策、社会貢献などに優

れた取組みを募集したところ、全国から13件が集まり、その中から5件が表彰された。

当日は各社の青年経営者によるプレゼンテーションも行われ「小学生向けの社会学習プログラムに会社ぐるみで参加することで、トラックドライバーという仕事を『将来になりたい職業』にしていきたい」(丸吉運輸機工)、「荷役作業時にトラックの荷台にワイヤーロープを張り、ドライバーがそこにベルトのフックをかけることで転落を防止するようにした。費用は1台当り1万2000円程度で、荷主さんの管理者からも『素晴らしい取組みだ』と評価され、信頼が高まった」(サンコー)、「ポリスチレン発泡剤による荷台のフロアシステムを独自開発し、荷台床材のライフサイクルを伸ばすとともに、積載重量をアップさせた」(彦新運輸)、「トラック受付システムと予約システムを自社開発し、倉庫入出庫業務の円滑化とトラックの待機時間を大幅に短縮した」(川崎陸送)、「納品用段ボールについて、出荷を自社トラックで対応することによって、空段ボールの回収と再利用が行えるようになった」(新居建設運輸)などの成果が発表されていた。